平成30年　7　月　13　日

政務活動費行政視察報告書

視察期日　　平成30年7月6日

視察地及び項目　東京都杉並区立天沼小学校「ICT教育」

視 察 参 加 者

公 明 党　　吉川　義郎、　西川　和男、今村　弘志

視　察　内　容　　別紙のとおり

報　　告　　者　　（氏名）今村　弘志

別紙について（視察内容）

東京都杉並区立天沼小学校は、杉並区の「ICT の活用に関わる研究」における「教育課題研究指定校」に指定されています。先進的な ICT 教育を実践する杉並区立天沼小学校へ視察に。全教室に無線 LAN やプロジェクターが設置され 4 年生以上の全児童に 1 人 1 台、専用タブレットがあり日常的に活用し文房具感覚になっているとの事。区として ICT 支援員も配置され機器の故障、システムの不具合、教職員へのスキルアップも含め迅速に対応できるように整備されていました。また、松野校長先生からはプログラミング教育の進め方について、「情報教育を進めていくのは“プログラミング的思考”と“情報モラル”。プログラミング的思考がアクセルだとすれば、情報モラルはブレーキでアクセルは踏み込んだらどんどん行こうとしますが、暴走したら大変なので情報モラルというブレーキは欠かせない事から計画的な取り組みが必要である事を教えていただきました。視察では歴史や英語、理科の授業を見学させて頂き、子ども達は楽しそうに授業を受けていました。

平成30年　9　月　10　日

政務活動費行政視察報告書

視察期日　　平成30年8月13日

視察地及び項目

千葉県柏市　「フレイル予防の取り組みについて」

視 察 参 加 者

公 明 党　　西川　和男、今村　弘志

視　察　内　容　　別紙のとおり

報　　告　　者　　（氏名）今村　弘志　今村

別紙について（視察内容）

柏市では、団塊の世代が75歳を迎える2025年までに、集中的かつ計画的に市民の健康づくり活動を支援するため、「フレイル（虚弱）」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体、学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な連動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進しています。フレイルとは、元気な状態と介護が必要な状態の中間で、年齢を重ねて心身の活力が低下した状態のことで、より早期の発見・対策で回復度も高まる。東京大学高齢社会総合研究機構は自分がフレイルなのかをチェックするフレイルチェックというプログラムを開発。このプログラムのお手伝いは基本的に市民であるフレイルサポーターが行うが、東京大学のエビデンスがある取組ということで、男性の高齢者の応募が多いことがわかったとの事。

介護予防は本市にとっても、喫緊の課題であるが、柏市のフレイル予防のように 早期に、気軽に、できるだけ多くの方が、参加できる取り組みになるような仕掛けも重要だと感じました。

厚生労働省によりフレイル(虚弱)予防が定義され今後、普及していくと思うが、柏市は東京大学と提携していち早くその内容に取り組んでいました。その予防のための「3つの柱」である栄養・運動・

社会参加はわかっていることではあるが、なかなか自分事として取り組んでいないのが現状で柏市では、その「気づき」を促すための個人別のフレイルチェックに取り組み、各種講座への参加、運動や口腔、栄養に関しての各種プログラムの普及促進に取り組み、 フレイル(虚弱)予防と高齢者の健康づくりを推進している。それに伴う人材の育成と地域住民の参加による生活支援サービスなども推進している。本市としても健康寿命の延伸と介護予防を進めていくうえでは参考になる物が多くありました。

社会参加・社会的役割を持つことが、生きがいや介護予防につながるという視点でボランティアやサポーター育成にも力を入れている点は、とても参考になりました。フレイルサポーターは、ほとんど70 代の方で、 まさしく社会参加のお手本のような役割を果たし、また、フレイル予防のための推進委員会を立ち上げていることは、市としてのいかに重要施策と捉えているかが現れていると思いました。柏市で取り組まれている介護予防事業に関しては、東京大学や千葉大学などの 調査とデータ分析に基づき方向転換がなされ、全国に先駆けてフレイル(虚弱) 予防に着手。「栄養とからだの健康増進調査」から得られた知見を基に身体面、 精神面、社会的側面の

要素が盛り込まれた包括的複合型フレイルチェックを開発し、大学や医師会などの専門的な知識やアドバイスも受けながら改善されており、 本市においても行政だけでなく大学や医師会などとの連携強化の必要性を感じた。また、これからの課題として高齢化や世帯縮小、孤独化が進む中、多世代による交流やつながりが重要となってくることは明らかであり、柏市における地域を基盤とした事業展開についても、フレイルチェックの定期実施・予防講座といった講座の開催や地域サロンやグループへの講師派遣、地域で活動を推進する人材の養成や市民主体の活動の継続支援といった人材育成の3つの柱を中心に 介護予防センター、地域包括支援センターと地区社会福祉協議会などが連携されている切れ目のない取り組みは参考となった。高齢者が地域で元気に生き生きと暮らせるまちづくりが第一の目的であるが、 元気な高齢者が増えることによる保険料の抑制は財政の厳しい本市にとっても重要なポイントとなるもので、要介護・要支援になる前の予防事業をいかに効果的・実践的に取り組むかを検討し、これまで以上の取り組みが必要と考えます。

平成30年　10　月　20　日

政務活動費行政視察報告書

視察期日　　平成30年10月10日～12日

視察地及び項目　「第８０回全国都市問題会議」新潟県長岡市

テーマ「市民協働による公共の拠点づくり」

視 察 参 加 者

しきの会　鈴木　潔、河野　芳徳、安藤　圭介

公 明 党　　西川　和男、今村　弘志

視　察　内　容　　別紙のとおり

報　　告　　者　　（氏名）今村　弘志　今村

別紙について（視察内容）

「第８０回全国都市問題会議」が１１日と１２日の２日間にわたり新潟県長岡市で開催され、全国の市議会議員や市長など約２，０００人が集いました。長岡市といえば大花火大会です。長岡花火には、戦争の犠牲者の慰霊、戦後の復興に尽力した先人への感謝、恒久平和への願いが込められています。長岡市とハワイは共に戦争の痛みと苦難を体験している事からホノルル市と長岡市は2007年から交流を続けてきており、2012年3月2日に姉妹都市提携を結び「平和への祈り」が込められた長岡花火が打ち上げられます。

会場（アオーレ長岡）では豪快な花火の打ち上げの演出もありました。

今年は「市民協働による公共の拠点づくり」のテーマで基調講演、報告、パネルディスカッションなどが行われました。地元長岡市・磯田達伸市長の他、建築家 隈研吾先生、アートディレクター 森本千絵さんなどの講師から講演を聴くことがきました。

①【隈研吾】

1975年に東京大学大学院工学部建築学科を卒業。コロンビア大学客員研究員、慶應義塾大学教授を経て、2009年より東京大学教授。国内だけでなく、世界各地で建築のプロジェクトに携わるなど国際的に活躍。木材を使うなど「和」をイメージしたデザインが特

徴的で、「和の大家」と呼ばれる。アオーレ長岡の設計者である隈研吾さんが「場所の時代」と題してアオーレ長岡の設計、特に「ナカドマ」の意義等を中心に解説。また、国内や世界の市役所等の公共施設が市民協働等の「場」の力を発揮している事例を紹介。

②【森民夫　前長岡市長】

長岡市の中心市街地の活性化は、市民の「誇り」を取り戻すことが目的であったこと、また、その手段として市民協働の拠点を創ることにより賑わいを創出することを目的としたアオーレ長岡の建設に踏み切ったこと、さらに、市は設計理念のみを明確に提示し、設計は隈研吾さんに一任したとの事でした。

③【磯田達伸　現長岡市長】

開催会場となった「アオーレ長岡」は、「アリーナと市役所」が一体となった全国初の新公共施設です。また、全国初の「子育ての駅」は〝屋根付き広場と保育士のいる公園〟。「雨や宇行の日でも」、子どもをのびのび遊ばせたいという雪国の保護者の声を実現した施設など様々な取組について紹介がありました。

④【森本千絵】

幼少期から生け花の先生である祖母とテーラーを営む祖父の影響で切り花や残布のコラージュで絵を描く。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科を経て博報堂入社。2007年、もっとイノチに近いデザインもしていきたいと考え「出会いを発見する。夢をカタチにし、人をつなげる」をモットーに株式会社goen°を設立。2014年日本建築学会賞、第4回伊丹十三賞など、輝かしい実績を残されています。

森本さんからはサイン計画やアオーレ動画等の作成を通じて市民協働をどのように盛り上げたかについて講演。

色々なパネラーのお話を伺うことができ、大変有意義な会議に参加出来たと思っています。印象に残ったのは東京理科大の伊藤香織教授の「シビックプライド」という言葉。市民の誇りを持つ、持てるということが重要でそれがコミュニティを作り、それを包む施設や環境である事。「アオーレ長岡」という市民協働のための公共スペースを会場にして様々な取り組みを知ることができました。

長岡市は、その他にも先進的な取組が数多くあり、〝屋根付き広場〟という発想は雪国の長岡らしい地域性の現れの１つではないでしょうか。自治体にはそれぞれの歴史、地域性、特徴、財政状況等があり、その中で「市民協働による公共の拠点づくり」をどのように取り組んでいくかを学ぶことができました。